

# 小松市国際交流協会

## ○日本語教室の設置・運営

毎週日曜日 9:30~11:30開催

|              |                                                                                     |                   |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| Aクラス<br>(上級) | Aクラスは生活に必要な日本語はほぼ話せる人たちがさらなるレベルアップを目指して学習している。また色々な国の人がAクラスの活動を通して交流し、仲間作りの場となっている。 | 受講者総数<br>7カ国 33名  |
| Bクラス<br>(中級) | Bクラスは初級を終了した学習者がさらにレベルアップし、より実践的な日本語の習得を目指すクラスである。またいろいろな国の人たちが交流できる場所にもなっている。      | 受講者総数<br>10カ国 27名 |
| Cクラス<br>(初級) | 日本語が全くわからない外国人を対象に行っている初級クラスの日本語クラス。まずは、「日本語で生活に困らないように」を目指し、わきあいあいと楽しく学習している。      | 受講者総数<br>7カ国 21名  |



## ○学習教材の作成における行事

### ・パーベキュー

学習者による学習者のためのイベント企画運営ということで、買い出しから準備まで全て皆で協力して行った。バーベキューをしたり、宝探しをしたり大変盛り上がった。

### ・消防署見学

急に子どもが病気になる時、大きなけがをした時、どのように救急車を呼ぶべきなのか。教室で電話のかけ方を学んだ後、消防署へ見学に行った。消防署には6ヶ国語に翻訳された「質問シート」があり安心して救急車を呼べることを確認でき、救急隊員とのやりとりのデモンストラレーションもした。また、火事の際の「煙体験」もでき貴重な時間だった。

### ・KIA大運動会

初めて学習者たちが企画、運営した運動会だった。JICAプログラムで来日していたベトナム人13名も参加して、いろいろな言語で声援が飛び交った。

### ・環境美化センター見学

小松市のゴミの分別の仕方を学んだ。住んでいる地域はゴミの分別が難しく、皆興味津々だった。教室で学んだ後3クラス合同でゴミ処分場の見学に行った。ペットボトルのリサイクルやプラゴミの手作業での分別、私たちが気をつけなければならないことなど説明を受け、ゴミに関心を持ってもらうことができた。

### ・KIAクリスマスパーティ

オーストラリア、デンマーク、タイ、中国からの美しい若き女性陣と国際色も年齢層も豊かな男性陣によるかがやけを披露した。リファレよりお借りした民族衣装を着こみ、自分たちでセリフも考えた「KIA版かがやけ」の悲しい物語である。本人たちは大勢の観客を前にものすごく緊張したそうである。後日談として、悲しいことに3人のかがやけは本当に国へ帰ることになった。また会える日を日本に残る若者たちは心待ちにしていることであろう。



## ○人材の養成・研修

### 「日本語講師養成講座」

受講者：10名

石川県国際交流協会の専任講師 今井氏、皇氏による日本語講師養成講座を開催。「日本語を外国人に教えるということはどういうことか」から始まり、「やさしい日本語とは」を丁寧に講義していただいた。



### 「日本語講師養成講座～実践編～」

受講者：10名

日本語講師養成講座終了後クラスで実際に授業をするための講座を開催。現役講師による発音や動詞の教え方、教案の書き方など実践的な講座を開催した。また実際に外国人に協力してもらい、模擬授業も多く取り入れ実際に教えるということを体験した。



## ○学習教材の作成

講師：金沢大学 准教授

松田 真希子氏

文化庁の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラムを基にAクラスで実際の生活に役立つ教材を全10章作成した。



### ・KIAスピーチ発表会

人前で発表することで、自分の考えをまとめたり文章にすることで、さらなる日本語力をアップさせる目的で今年初めて行った。参加者10名が自分の考えを5分にまとめて発表する事ができた。スピーチコンテストの内容をまとめ、小冊子を作成した。



## ○事業の成果と課題

### 【成果】

消防署、警察署、環境美化センター、教育委員会並びに地域行事への積極的な参加など地域との連携に努めた。地域行事では学習者が地域住民に自国の遊びやゴミ出しのルールなどを説明する機会を設け交流を図ることができ地域住民と「顔の見える関係」をつくることができた。また、日本人側にとっても地域に在住している外国人を知る良い機会になったようである。

### 【課題】

小松市在住の外国人の約80%が就労目的であり、日本語教室受講者のほとんどが就労者である。過酷な就労生活のため、日本語習得の重要性は認識しているものの、学習を長期継続することが難しいのが実情である。そんな学習者のため学習のモチベーションを維持させる為に教室活動の内容を工夫をしたり、イベントの企画や地域住民との交流を図る機会を設けるなどの講師側の働きかけが重要になっている。また、人材の育成に関しては定期的に養成講座などを開催し、既存講師・新規講師共にスキルアップを図っていく必要がある。

### 【今年度の活動・課題】

平成25年度は、新たに子育て中の在住外国人お母さんにスポットを当て、託児の予算もいただいて「お母さんたちが社会で孤立することなく安心して子育てができるように日本語のお手伝いをする」と目標を掲げた。課題としては、車のないお母さんたちが多く、子連れで勉強に来る交通手段がないこと、皮肉なことに景気の回復により派遣の仕事が増え、私共の想像以上に早い時期から仕事に復帰する方が多く、学習者の減少が挙げられる。







2

Informational posters on the left wall, including a map of Japan and various charts.

小松市国際交流協会  
平成34年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
【地域日本語教育実践プログラム(A)】  
◎日本語教室の設置・運営  
◎学習教材の作成における行事  
◎人材の養成・研修  
◎学習教材の作成

スモールワールド博覧会  
MID JAPAN TENT  
A collage of photos and text related to the Small World Expo.

